

議会だより

やま と

# 山都

第50号

熊本県山都町議会

2023.12  
9月定例会



場所：蘇陽地区 今の「観ようみのる園」



# 9月定例会

令和5年第3回定例会は、令和5年9月7日に開会し28日に閉会しました。認定3件、報告2件、条例4件、補正予算7件、その他（工事・物品契約）11件を審議し、令和4年度の一般会計や特別会計等における事業の決算審査を行いました。

## 一般会計補正予算 第6号 主なもの

### 債務負担行為 指定管理料

(限度額 単位千円)

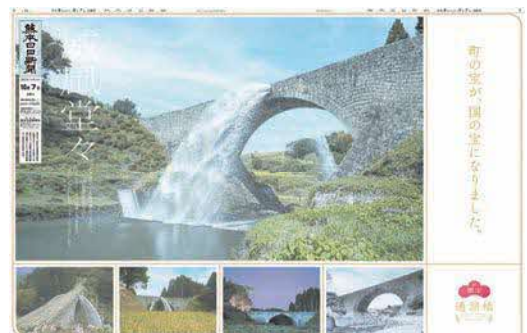
施設名	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	参考 5年度指定管理料
通潤橋史料館及び山都町物産館虹の通潤館	4,363	4,363	施設の改修等が予定されているため 2年間延長			2,286
猿ヶ城キャンプ村	3,364	3,364	3,364	3,364	3,364	3,389
清和文楽館	23,370	23,370	23,370	23,370	23,370	19,054
清和高原天文台	5,331	5,331	5,331	5,331	5,331	6,349
服掛松キャンプ場	1,434	1,434	1,434	1,434	1,434	3,633

(単位: 千円)

高齢者スマートフォン講座委託料	368	高齢者対象のデジタル機器操作講座
地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金	13,503	介護施設非常用自家発電整備補助
介護基盤緊急整備特別対策事業補助金	39,690	介護医療院転換整備及び公民館改修補助
がまだす里モン支援事業補助金	410	シニアクラブに対する特産品開発経費補助

地域商業機能複合化推進事業補助金	18,560	コンテナハウスによる商店街の活性化
キャッシュレス決済ポイント還元事業委託料	32,794	高速道路開通に伴い町内の売り上げ回復を目指す

通潤橋国宝指定関連パンフレット印刷製本	506
通潤橋国宝PR事業(新聞掲載、高速バスラッピング)	9,339
国宝指定記念祝賀会アトラクション謝金	150
国宝指定記念祝賀会運営業務委託料	930



通潤橋国宝PR事業  
令和5年10月7日 熊本日日新聞掲載

現年度農業施設災害復旧費	1,570,485	
現年度林業施設災害復旧費	19,785	
現年度公共土木施設災害復旧費	327,620	
農地及び農業用施設災害自力復旧事業補助金	30,000	補助対象外被災箇所に対する自力復旧への支援
豪雨被災家屋公費解体工事費	1,500	被災家屋(全壊)に係る公費解体工事

国民宿舎特別会計繰出金	28,015	旧国民宿舎通潤山荘売却に伴い、令和2年度に交付を受け実施した施設改修に対する交付金を返還するもの
-------------	--------	--

一般会計補正予算  
質疑応答



布田翁はいつも見守っています

**問(西田)** 猿ヶ城キャンプ村は災害に見舞われやすいが、存続させるのか。

**答(商工観光課長)** 早い時期の避難を徹底し営業を継続する。

**問(西田)** 地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金とは。

**答(福祉課長)** 介護施設や医療法人の事業対応体制整備のための交付金。

**問(西田)** コンテナハウスの説明を。

**答(商工観光課長)** 小一領神社参道と駐車場に設置し、小物・飲食店・快適なトイレなどを提供し、商店街の活性化を進める。

**問(吉川)** 何のパンフレット印刷製本か。国宝指定になってより良いパンフが必要だ。多言語化は検

討しているか。

**答(商工観光課長)** 通潤橋のパンフレットの増刷。中身の調整もする。「山の都はワンダーランド」のパンフの多言語化は計画中である。

**問(真原)** 高齢者スマホ講習会は必要とされる事業だ。これまでの実績は。

**答(企画政策課長)** 数字は把握していない。今回、矢部、清和、蘇陽で2回ずつ実施予定である。

**問(真原)** 前回のキャッシュレス決済ポイント還元事業では、利用者・事業者の相互理解が不足した。今回の対応は。

**答(商工観光課長)** 中央道開通においての町内誘客を目的とする。還元率は20%、1回あたり6,000円分(6,000ポイント)まで。1人2万円(2万ポイント)上限。

**問(藤川)** 現在と来年度からの指定管理料に差額がある理由は。

**答(商工観光課長)** 利益が増えたところは減額に、減ったところは増額になる。

**問(藤川)** 高齢者スマートフォン講座はキャッシュレス決済に特化したものか。

**答(企画政策課長)** あくまで高齢者のデジタルデバイド(\*1)解消のため。

**問(工藤)** 介護基盤整備事業が野



スマホ講習会の様子

原公民館で利用されるが、町内では初めての事例ではないか。この事業が公民館で使えることは町民に周知されていないのでは。公民館改修には大きな負担が伴う。この事業は補助が大きいので、区長会などで周知してほしい。

**答(福祉課長)** 町広報誌において情報発信している。地域からの相談にも対応している。基本的に介護予防を目的とした事業である。今後は、サロンや通いの場を使うように協力していく。

**問(後藤)** 野原公民館は全額補助か。

**答(福祉課長)** 財源は県補助100%。公民館は上限971万円。介護事業に取り組むことが大

前提になる。  
**問(後藤)** 実績報告はどのようなか。指導はどうしているか。

**答(福祉課長)** 実績報告の義務はない。県の基金を利用した介護基盤事業である。いつまで補助が続くかは不明。

**問(西田)** キャッシュレス決済ポイント還元事業は高齢者には使いにくい。地域商品券への転換はできないか。キャッシュレス決済でい

くならば、高齢者への支援が必要だ。  
**答(商工観光課長)** 商品券は、印刷や郵送に経費と手間がかかる。高齢者への支援は事業者と協力して行ないたい。

**問(西田)** 国民宿舎特別会計への事前の繰出しは、一般会計から直接支出すれば済むことではないか。

**答(商工観光課長)** これまでも特別会計でやってきた。

**問(藤川)** 条例廃止の時に返還義務は発生したのではないか。なぜ、その時返還しなかったのか。

**答(商工観光課長)** 町の財産を売却すること、その中に国の交付金を使った部屋があるので、その分を返還することとなった。有償、無償いずれにしても交付金の返還はしなくてはならない。

(\*1) デジタルデバイド：情報通信技術を利用できない者と利用できない者との間に生じる格差)





まはら まこと 議員  
眞原 まこと 議員



全質問の動画はこちらです

清和地区義務教育学校整備で  
浮上した課題の具体的な内容は

**問** 清和地区義務教育学校の整備について再度協議することとなった課題とは。

**答** (学校教育課長)

清和地区における候補地の再検討、事業の全体的なポリシーや事業費の想定、関連して児童生徒数についても再検討すべき課題として捉えた。

**問** 候補地と児童生徒数について再検討すべきだと判断した理由は。

**答** (学校教育課長)

7月3日の梅雨前線豪雨により、清和地区米生の整備予定地が内水氾濫により浸水した。また、最寄りの幹線道路である国道218号からの進入路となる大川交差点も、浸水により一時通行止めとなったことを重要な事象として捉えた。児童生徒数については、学校規模適正化基本方針(令和3年)策定時に減少は加味



内水氾濫により浸水した清和地区義務教育学校整備候補地付近

していたものの、令和4年度の出生数を踏まえて再算定したところ、さらなる減少が実数として見られた。これらの懸案事項を総合的に捉え、児童生徒の安心安全な学舎として最適な場所と言えるか、その他の懸案事項を含めて、黙認せず一旦立ち止まって再検討すべきとの総意が、教育委員会の会議で示された。

**問** 再検討の協議期間はどれほど見込んでいるか。

**答** (学校教育課長)

これからの協議となるため具体的な期間の見込みは示せないが、清和小・中学校の各校舎等の現状を踏まえると、協議を長引かせることは避けるべきだと考えている。

## 清和地区義務教育学校再検討

本年3月に「清和地区義務教育学校基本構想・基本計画」が策定され、令和9年度開校をめざしておりましたが、7月3日の梅雨前線豪雨により、校舎建設予定地が浸水したと、今後の児童生徒数の減少等を鑑み、あらためて教育委員会会議において検討することとなりました。

令和11年・小中学校の児童生徒数推計値			
	方針策定時	本年度6月時点	減数
矢部地区	347	320	27
清和地区	119	98	21
蘇陽地区	159	153	6
全体	625	571	54

【適正化基本方針における児童生徒数の推計値と現時点での推計値の比較】



清和小学校



清和中学校



よしかわ みか 議員  
吉川 美加



全質問の動画は  
こちらです

①「国宝・通潤橋」の周辺整備  
②太陽光発電設置の環境への  
影響

**問** 通潤橋が国宝へ答申されたのは大変おめでたい話だが、通潤橋が国宝への歩みを始めたのはいつだったのか。

**答**（生涯学習課長） 国宝へ意見具申書を提出してみないかと文化庁から打診があったのは2月下旬。通潤橋総合調査報告書を文化庁に提出していたためだと推察する。その後3月17日に意見具申書を提出した。以降、5月26日に文化審議会に諮問され、6月23日文科大臣へ国宝の答申が行われた。

**問** 国宝通潤橋となるが、その周辺整備は全く遅れている。今後の周辺整備の予定を。

**答**（商工観光課長） 周辺の竹林伐採を進めている。令和6年度に老朽化したトイレの新設、物産館、史料館の改修工事。物産館前の広場の整



道の駅の老朽化したトイレ

備を予定。7年度には中央体育館解体後の整備を予定している。

**問** 全国的に再生可能エネルギーの中心的なものとして、太陽光発電施設が盛んに建設されているが建設に係る開発が災害を誘発する事例も後を絶たない。本町の考えは。

**答**（企画政策課長） 山都町景観計画において、太陽光パネルの面積1000平米を超える場合は届出を必要としている。国の上位法がある以上、町独自の条例で規制することは難しいが、事業者や住民との協議が前提であるので設置後の維持管理の徹底を考えながら、その方法を探る形で条例制定へ進めていきたい。



やに た ひでのり 議員  
矢仁田 秀典



全質問の動画は  
こちらです

豪雨災害復旧の具体的な対策は

**問** 国宝指定という素晴らしい出来事をどう捉え、どう活かしていくつもりか。

**答**（商工観光課長） 国宝指定のPRや情報発信の予算も計上している。観光協会や商工会でも国宝答申を盛り上げるため事業に取り組んでいただいている。経済効果を最大限に発揮するため、行政が取り組むべきこととあるが、民間事業者の方にも自主的に取り組んでいただきたい。

**問** 7月3日豪雨災害の件数・復旧費と支援、補助率について伺う。

**答**（農林振興課長） 農災909件、22億円。補助率は通常農地については50%、施設については65%であるが、今回は激甚災害の指定により嵩上げが行われる。補助率は12月に示される。

**答**（建設課長） 公共災は220件、32億円。激甚災害の指定により嵩上

げが行われるが、補助率は査定後に決定される。

**問** 河川改良を町から県に要望すべきと思うがいかがか。

**答**（建設課長） 河川改良は町長名で県に要望する。

**問** 農産物に係る経費の高騰と農産物の価格低迷についてどう考えるか。

**答**（農林振興課長） 国・県の支援制度の周知と併せて町独自の支援を行う。今回飼料価格高騰対策支援事業を予算化している。農業を取り巻く環境は厳しいものがあるが、国・県の動向を注視しながら本町の農業の経営安定のため施策を考えていきたい。



被害を受けた河川（頭首工）





西田 由未子 議員



全質問の動画はこちらです

公立保育園の今後のあり方について問う

問 公立保育園の統廃合については、まずは町が主体的にそれぞれの保育園に対し説明会を開き、保護者の思いを丁寧に聞くところから始めるのが筋ではないか。答申時期も10月は早すぎるのではないか。

答(福祉課長) 希望のあった保育園で説明会を開き、今2園終了している。今後も5園全部に対し、説明会を行っていききたい。

問 これまでの説明会での保護者の意見に、どのようなものがあったのか。

答(福祉課長) 「近くにある保育園は残してほしい」「子どもが慣れているので残してほしい」「もう少し時間をかけて議論したらどうか」「統廃合は致し方ない」「同じ年齢の子どもがたくさんいる中で保育を受けさせたい」との思い

を聞いている。あり方検討委員会では、委員のみならず保護者の意見も加味し、子育て支援の重要な手立てと位置付け、慎重に対応したい。

問 これまでも統廃合は行われてきたが、時間をかけて丁寧に保護者の意見を聞いたり、子ども同士の交流を深めたりしながら納得と了解のもと進められてきている。保育士不足は手立てをきちんとすべき。保育所がなくなることで、保護者の生活への影響や町外流出も考えられる。住宅支援や子育て支援の見直しも必要。その一つとして、保育園留学事業の説明を。

答(山の都創造課長) 保育園に通う未修学のお子さんがある町外のご家庭が対象で、2週間町内の保育園に通わせながら、好きな地域に滞在し、農業体験等を行って頂く。体験を通して山都町に特別な思い入れを持っていただく、将来的な移住先の候補地に結びつけばと思っている。



坂本 幸誠 議員



全質問の動画はこちらです

- ①旧国民宿舎について
- ②矢部高校の二輪車クラブについて
- ③消防署について

問 旧国民宿舎について、虹の通潤館の自己破産により債権者への対応を町としてどう考えているか。

答(商工観光課長) 指定管理者制度で委託をしていた。今は破産管財人に任せてあるので債権者への分配がどれくらいになるか、まだ分らない。

問 入浴券の払い戻しの金額と財源について、また偏頗弁済に当たらないか。

答(商工観光課長) まだ整理中なので答弁は差し控える、偏頗弁済には当てはまらないと考える。

問 通潤山荘入口の道路の一部に私有地があるが、どうなったのか。

答(商工観光課長) 買収には至っていないが、今まで通り使用するようになっている。

問 10年間の中で契約違反があった場合、買い戻し制度により売った金額で買い戻すのは、おかしいのではないか。

答(商工観光課長) 書いてある通りである。

問 矢部高校の二輪車競技部を活かした取り組みについて、生徒数を増やす為、二輪科を作る考えは無いか。



矢部高校二輪車クラブ練習風景

答(町長) 県立高校であるため、町が言える立場ではないが、二輪車クラブに関しては応援していきたい。

問 今ある消防署蘇陽出張所を残してほしいがどう思われるか。

答(総務課長) 消防署庁舎建設検討委員会で話し合いができていくが、山都町は広いので残されるものなら残してほしい。



## 令和5年7月3日の豪雨による被害報告

山都町において、令和5年7月2日深夜から7月3日早朝に発生した線状降水帯による豪雨被害は以下のとおりです。

### ①公共災（町管理河川、町道）

河川	146件	2,637,900千円
道路	76件	504,200千円
計	222件	3,142,100千円

### ②農災（農地：田畑、農業用施設：農道水路等）

田	508件	1,260,000千円
畑	44件	105,050千円
農道水路等	357件	862,150千円
計	909件	2,227,200千円



### ③林道災（町管理林道）

3路線4か所 17,325千円

#### 【被害状況写真】



農地（米迫）



農道（下川井野）



林道（矢部水越線）



町道（七ツ谷線）



総務常任委員会

【総務課】

社会情勢の変化により職員の役割が多様化していることから、職員の健康維持のため職場環境づくりの創意工夫を求める。町有財産である町有林、廃校跡地利用など積極的に取り組んでほしい。

全町に自主防災組織が立ち上がり訓練参加率が年々向上しており、防災、減災への意識が高まっている。

【教育委員会（生涯学習課）】

矢部高校応援事業における入学者数の増加に向けた取り組みで、町外の中学生への情報発信も大切だが、町内の中学校からの入学者を増やす取り組みが最重要課題である。

中央グラウンド周辺整備事業で待望の芝生広場の整備が整い、日々グラウンドゴルフが盛んにプレーされており、健康増進が図られ喜ばしいことである。



芝生広場でグラウンドゴルフを楽しむ様子

【企画政策課】

デマンド乗り合いタクシーの制度を、試行錯誤を経ながらでも早急に確立させ、高齢者が安心して生活できる交通手段を確保されたい。

有限会社虹の通潤館の自己破産で多くの債権者に多大なご迷惑をかけた。第3セクターの監督課を明確にし、運営に責任ある対応ができる体制を望む。

【税務住民課】

現年度の徴収率については、96.7%と収納率向上に努められた。今後、更に町民の納税

意欲と義務意識の向上に努められたい。

【支所】

組織の再編により、両支所では職員数がそれぞれ6名減となるなか、これまでと変わらぬ住民サービスが求められる。行政業務が適正に行えるよう支所職員の配置には十分配慮されたい。

両支所とも、本庁所管課や関係団体等との連携を密に取りながら報告、連絡、相談を基本とし、行政サービスを低下させないよう、更なる組織体制の構築及び推進を図る必要がある。

【結び】

現年度においても中央グラウンド周辺整備、道の駅整備事業、町営住宅の整備、若者の移住・定住の促進など多くの取り組みが行われてきた。

小峰クリーンセンターのゴミ焼却処理施設は稼働後30年が経過しており、補修工事を行いながら施設の延命を計っている。上益城広域連合での会合も進められており、早い段階で



稼働後30年が経過している  
小峰クリーンセンター

の建設を望む。  
本町の林業経営は依然として厳しい。森林環境譲与税を有効に使い林業従事者の生活安定、雇用拡大の実現に努力願いたい。商店街の町内事業者への事業継続及び回復への支援をされてきた。今後とも支援継続を望む。

令和4年度は自主財源が、決算額、構成比とも伸長している。本町は依存財源に大きく頼っているため、自主財源が少しでも向上するよう努めて頂きたい。



厚生常任委員会

福祉課、健康ほけん課、環境水道課、そよう病院の令和4年度の事業について振り返った。どの分野も町民の健康と生命を支える縁の下の仕事を担っている。新型コロナウイルス感染症の勢いはやや落ち着いてきたかに見え、各地でのサロン活動も復活の兆しがあるようだ。医療機関では緊張が絶えないが、町民の支え合いの活動にも力を入れて欲しい。

【福祉課】

妊娠期から育児、児童の成長、高齢者支援と守備範囲が広い分野である。日頃から町民の安心安全な生活を構築するための事業を推進している。

令和4年6月から開設した「子育て相談室」は様々な相談のワンストップ窓口の役割を果たしており、相談事を支援先の窓口へ繋ぐことができている。

【健康ほけん課】

町民の生涯健康を目指し、生

活習慣病の改善をはじめ、町民の健康推進に努力を重ねている。

住民健診の受診率が高いレベルを維持しているが、若年層の健康診断の有所見率は高く、重症化予防のための早期介入が必要である。町の高齢化率は県内最高値となった。今後も健康で長生きを目指す取り組みを一層強化して欲しい。

核家族化が進む中「出産・子育て応援ギフト事業」を開始した。母子健康手帳の交付時と、出産時に現金支給の形だ。これは、出産を希望する人の後押しになっていると聞いた。今後もお産を希望する人たちの応援となるよう継続して欲しい。



住民健診は病気の早期発見に大きな役割を果たします

【環境水道課】

上益城5町の広域ごみ処理場については、民間事業者への変更予定があり、環境アセスが進行中だが、今後の参加自治体の一つとして、推移を注視してもらいたい。

ゴミについては、更に家庭ごみの減少をはかるための施策を推進して欲しい。

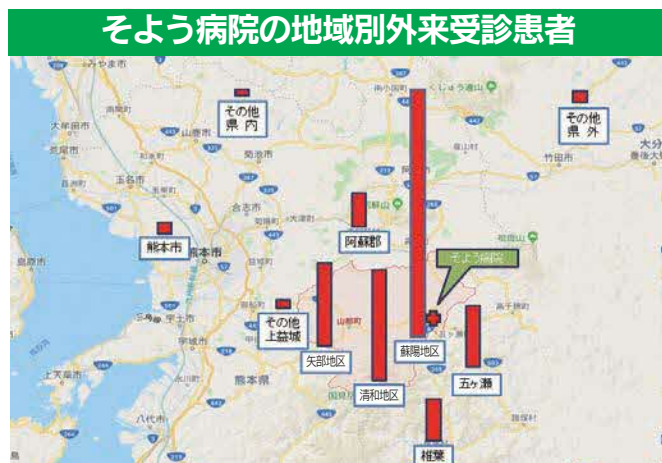
河川の水質保全のためにも、合併浄化槽の設置について普及率を上げる取り組みを期待したい。

【そよう病院】

そよう病院はその立地から、町外からの受診者も多く、広域からの医療のニーズに添えている。慢性的な医療スタッフ不足はあるが、熊大やその他の医療機関から協力を得て、専門的な診療も可能になっていることは評価したい。また、コロナ病床を有しながら治療にあたった中で感染予防に細心の注意を払い、院内クラスターを発生させなかったことは評価し、業務にあたられた医師や看護師等へ敬意を表したい。

訪問看護ステーションも病院と密接に連絡しながら在宅看護の支援をしている。家庭で治療を続けたい家庭への力強い支援となっている。

そよう病院の地域別外来受診患者



そよう病院の受診比率

地区	比率 (%)
蘇陽地区	60.38
清和地区	21.42
矢部地区	11.70
五ヶ瀬	3.30
椎葉	2.44
高千穂	0.30
阿蘇郡	0.21
その他	0.18



経済建設常任委員会

【農林振興課】

有機農業の推進については、有機農業推進計画のもと、国の「みどりの食料システム戦略緊急対策交付金事業」を活用して取り組んでいるが、有機農業の町として、これまでに培われてきた環境にやさしい農業と農地を次の世代へつないでいくことが大事であるため、山都町有機農業協議会と協力し、さらなる有機農業の振興を期待する。

有害鳥獣については、捕獲実績が、7,832頭と過去最高の実績となり、個体数の減少には至っていない。これまでの活動に加えて、個体数を減らす効果的な手法を検討する必要がある。

地籍調査については、令和4年度末時点での地籍調査（一筆地調査）の進捗率は62.70%である。令和5年度から実施するリモートセンシング技術に大いに期待し、第7次10か年計画どおりに事業が進捗することを望む。

【山の都創造課】

定住支援住環境整備事業補助金は移住促進に大きな効果を発揮しており、移住者・就農希望者と、農業研修や雇用の受入業者とをマッチングする地域のごと支援事業は、短期滞在施設、空家バンク制度と合わせて、山の都の定住支援事業の促進に大きく貢献している。今後は空き家の利活用としてサブリースの検討も進めていただきたい。

後継者交流促進事業「You & You」は、事業開始から44組（うち今年度は2組）の成婚実績で、着実に成果を上げている。

SDGsの事業については、持続可能な暮らしの実現に向け町民一人一人がSDGsに関する理解や関心を深めるため、出前講座を開催し普及に取り組んだ。生ごみの堆肥化事業も、シェアクラブと連携し食の循環を構築できた。

【商工観光課】

中心市街地に人の流れを取り戻すため、やまと文化の森の積極的な利活用を目指し、管理運営業務を委託されている株式会社

社まづくりやべでは、1年間で15回に及ぶ展示会などを開催し、5万人を超える年間入館者数となった。また、八朔祭大造り物小屋を整備し、8団体すべての造り物小屋が完成した。大造り物を目当てとする観光客の商店街周遊に向けた今後のソフト事業にも期待する。

道の駅やキャンプ場など11の観光施設は、各施設とも老朽化が進んでおり、施設ごとの改修計画と財源の確保が必要である。

【環境水道課】

水道事業は公営企業会計が導入されており、事業収益の状況改善のために令和4年度から水道料金を引き上げた。施設等の更新計画に基づいた更新工事を実施し、水道の開閉栓に係る手続きを電子化するなど、業務の効率化にも取り組んでいる。

簡易水道事業については、道路の改良工事に合わせて、導水管の更新工事を実施した。

小規模水道施設の維持管理に対する補助事業は、施設修繕等の費用を補助し、住民の衛生的な飲料水の確保に努めている。

【建設課】

「地方創生道整備推進交付金事業」・「社会資本整備総合交付金事業」・「防衛関連事業」等を主に各事業を活用し14路線の改良舗装工事、16路線の維持工事、また「道路メンテナンス事業」として4箇所（橋梁補修架替工事）が行われた。

公共土木施設災害復旧事業は、「令和元年災」までは完了。「令和2年災」13件、「令和3年災」70件「令和4年災」61件の早期完了を切望する。

住民からの要望度が高い各事業であり、今後も国・熊本県と密に連携され財源の確保を図り、地域住民と一体なった安全・安心な社会資本整備をさらに進めていただきたい。



災害や断水などが発生した場合のための給水タンク（1,000ℓ）





# 通潤橋「国宝」指定 令和5年9月25日

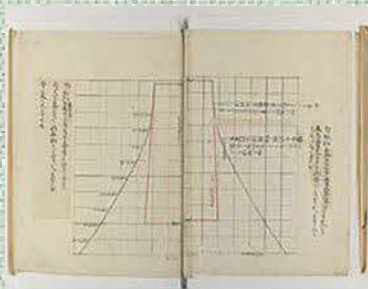
通潤橋が、令和5年9月25日に国宝へ指定されました。通潤橋は1854年に矢部手永の惣庄屋布田保之助翁が代表となり白糸台地へ水を届けるために架けた日本一の石橋アーチ水路橋です。昭和35年に国の重要文化財に指定されています。また、「通潤用水」が世界かんがい施設遺産の登録を受け、「通潤用水と白糸台地の棚田景観」が重要文化的景観に選定されています。今回は、現役の土木建造物として初の国宝に指定されました。同時に指定を受けた「御小屋」「石碑（2基）」「関係文書（2冊）」「御試吹上樋」についても、通潤橋と同様な管理や保存が望まれます。



御小屋



石碑



関係文書  
(通潤橋仕法書)



御試吹上樋

## 条例の改正

国指定重要文化財「通潤橋」の橋上部における公開に関する条例を改正し、

条例の題名を、**国宝「通潤橋」条例**と改めました

国宝「通潤橋」を公共のために大切に保存し、広く公開することで文化的活用を図ることを目的としています。橋上の見学については従来どおりで、その観覧料を**国宝「通潤橋」保存活用基金**の中で運用します。

※通潤橋保存活用計画区域、通潤橋西側水田区域、その他町長が指定する区域については、物品の販売や映画やテレビの撮影などは、町へ申請し許可を得る必要があります。

※ドローンを使った撮影などは、基本的には禁止です。



工事請負変更契約

津留線道路災害復旧工事

契約相手方 矢部開発(株) / 山都町南田

増額 990万5,292円

(仮称) 山都町総合体育館建築工事

契約相手方 西松・三栄特定建設工事共同企業体 / 福岡市中央区

増額 1億332万5,630円 (資材高騰及び屋根材の仕様変更による)

工事請負契約

山都町運動公園サッカー場ナイター照明整備工事 (ナイター照明一式、4本)

契約相手方 西邦電気工事(株) 山都営業所 / 山都町南田

契約金額 5,005万円

山都町運動公園サッカー場施設整備工事 (防球ネット、トイレ整備)

契約相手方 (株) 尾上建設 / 山都町千滝

契約金額 5,632万円

物品売買契約

山都町総合体育館 (パスレル) 運動器具等備品

(バスケット、バレーボール、バドミントンなどの運動器具)

契約相手方 (株) イシヌキ / 熊本市北区

契約金額 3,135万円

山都町総合体育館 (パスレル) 事務用品等備品 (エントランス他会議室等の備品)

契約相手方 (有) オフィス加藤 / 熊本市北区

契約金額 1,291万4千円

山都町立図書館移動図書館車 (経年の使用で劣化した車両の更新)

契約相手方 熊本日産自動車(株) 浜線支店 / 熊本市南区

契約金額 726万349円

賛否の表

○：賛成 ●：反対

議 件 名	議 年 月 日	採 決 結 果	賛 否													
			東	坂本	眞原	西田	中村	矢仁田	興梠	藤川	飯開	吉川	後藤	工藤	藤原	
議案第60号 令和5年度山都町 一般会計補正予算 (第6号) について	R5.9.20	可決	○	●	○	●	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○

「議会だより」に関する  
ご意見・ご感想は  
右記のQRコードから  
お寄せください。



R3.11月から今月号 (R5.12月) までの  
議会広報委員会メンバー

本誌で掲載していない9月定例会の議案と議決結果は、山都町HPに掲載しております。



(藤川 多美)

前期2年間、議会だより  
に携わってきた広報委員も  
本号をもって後期の  
広報委員にバトンタッチ  
します。これまで記事や  
写真撮影にご協力い  
ただきました皆様にと  
うとうございませう。新  
年を迎えますと、いよ  
いよ九州中央自動車道  
山都通潤橋IC開通や、  
通潤山荘のオープンな  
ど、白押しにやってみ  
ます。更なる山都町の  
発展を期待し筆を置  
きます。

発行責任者  
議長 藤澤 和生  
議会広報委員会  
委員長 藤川 多美  
副委員長 坂本 幸誠  
委員 飯村 浩昭  
中開 五彦  
吉川 美加

編集後記



この議会だよりはリサイクル推進のため、  
再生紙を利用しています。